

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

第四部 労働組合と政治・社会運動

I 社会保障闘争

4 高齢者運動と年金者組合

例年、健康で安心できる高齢期をつくる大行動実行委員会が主催する「九・一五高齢者大集会」は、八八年九月一五日、全国から五〇〇〇人が参加、川崎市体育館で開催された。集会は、高齢期保障の実現などを訴えるアピールを採択、統一要求二八項目を決定した。この集会は、今回で一八回になるが、労働戦線統一問題とからみ、八九年を最後に幕を閉じるのではないかとみられている。

前年の京都大会につづいて、全国高齢者大会中央実行委員会が主催する「第二回全国高齢者大会」は、九月一～二日の両日、のべ五四一五人が参加し、福島市で開催された。大会宣言、統一要求とともに、「高齢者憲章」が満場一致で採択された。この大会で決定した統一要求は、二月四日の「高齢者大会要求討論集会」でさらに討議のうえ、一五日の決起集会のあと、関係各省と交渉をおこなった。なお、第三回は埼玉県で開催することを決定している。

八八年の高齢者運動の特徴の一つは、年金者組合をつくる動きが出てきたことである。九月、イタリア年金受給者組合に二七名の視察団が派遣されて以来、活動がさらに活発になり、八九年三月の全国準備会の発足に向け、各地域で年金者組合や準備会が結成されている。イタリア労働総同盟の五〇〇万人のうち、その四割にあたる二〇〇万人は年金受給組合員であるといわれているが、これをモデルに、「第二の青春を年金者組合で」というスローガンで運動が広がりつつある。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)